

シマエナガ

雪の
ようせい



シマエナガは日本の北海道にだけすむ、小さな鳥です。体の大きさはみかんくらいで、まるでわたあめのようなふわふわのすがたから、「雪のようせい」とよばれています。

夏のシマエナガには、目の上に黒いもようがあります。ところが、冬になると体が白くふわふわになり、黒いもようもきえてしまいます。まっ白になることで、雪の中できに見つかりにくくするためだといわれています。

体のおもさは、一円玉九まいぶんほどしかありません。体が小さくて、すぐにおなかがつくので、えさをもとめて一日じゅうとびまわります。えさは、木のかわにかくれた虫や木のみで、えだにさかさまにぶらさがって、さがすこともあります。

さむい冬の夜は、なかまと木のえだに一れつにならんで、ぎゅっとくっついてねむります。春になると、コケとクモの糸をつかつて作ったすの中で、たまごをあたたためて、ひなをそだてます。

せんたく(1)

シマエナガはどこにすんでいるのですか？
えらんで○をつけましょう。

① おきなわ

② 東京

③ 北海道

せんたく(2)

シマエナガはなんとよばれているのですか？

えらんで○をつけましょう。

① 森のようせい

② 空のようせい

③ 雪のようせい

きじゆつ(1)

シマエナガの体はどのくらいのおおきさでしょう？

きじゆつ(2)

一年のうち、いつ体が白くふわふわになるのでしょうか？

かん字

かん字に直して書きましょう。

(1) おとこ

(2) はね

(3) がっこう

オコジョ

山の にんじや



オコジョは山の中にすむ、小さなどうぶつです。体がほそながいので、とてもせまいすきまにも、するりと入りこむことができます。すばやくうごくすがたから、「山のにんじや」ともよばれています。

夏のオコジョの体の色は、せなかが茶色で、おなかは白色です。冬になると、体はまっ白にかわりますが、しっぽの先だけはいつも黒いままです。てきの目を黒いしっぽの先にひきつけて、そのすきににげることで体をまもることができるといわれています。

えものをつかまえる前には、くるくる回ったり、ぴんぴんはねたりする、ふしぎなうごきをします。これを見たえものは、思わず目をばわれて、にげおくれてしまいます。そして、オコジョは自分より何倍も大きなウサギをつかまえることができるのです。

オコジョはねずみや小さな虫もつかまえて食べる、げんきなハンターです。ゆきの上をすばやくかけ回り、さむい冬の山でも、たくましくくらしています。

せんたく(1)

オコジョの体は冬になると何色になりますか？
えらんで○をつけましょう。

- ① 茶色
- ② 白色
- ③ 黒色

せんたく(2)

なぜえものをつかまえる前にふしぎなうごきをするのでしょうか？
えらんで○をつけましょう。

- ① てきをおどかすため
- ② あそぶため
- ③ えものの目をひきつけるため

きじゆつ(1)

オコジョは何のにんじやとよばれていますか？

きじゆつ(2)

なぜしっぽは冬でも黒いままなのですか？

かん字

かん字に直して書きましょう。

(1) たんぼ

(2) いぬ

(3) きょうだい

		んぼ

カモノハシ

ふしぎな
いきもの



カモノハシは、オーストラリアの川や池のそばにすむどうぶつです。カモのくちばしのようなくち、ビーバーのようなしっぽ、水かきのついた前あしもつた、ふしぎなすがたをしています。体の大きさは、ねこよりすこし小さいくらいです。

川ぎしに長いすあなをほつてくらし、水の中を上手におよいで、えさをさがします。水の中では、目も耳もはなも、すべてとじてしまいます。そのかわり、くちばしで水の中の生きものの電気をかんじとつて、川のそのえさを見つけるのです。

また、オスの後ろ足には、毒のほりがありま
す。オス同士でなわばり争いをするときに使う
といわれています。

さらにカモノハシは、ほにゆうるいなのに、
たまごをうみます。ほにゆうるいがたまごをう
むのは、とてもめずらしいことです。たまごか
ら生まれた子どもは、お母さんのおなかの上で
そだち、お母さんのおちちを飲んで、大きくな
っていきます。

せんとく(1)

カモノハシのしっぽは、何ににっていますか？
えらんで○をつけましょう。

①ビーバーのしっぽ

②カモのくちばし

③ねこのしっぽ

せんとく(2)

何をつかってえさをさがしますか？

えらんで○をつけましょう。

①くちばし

②しっぽ

③前あし

きじゆつ(1)

オスの後ろ足には何がありますか？

きじゆつ(2)

カモノハシがめずらしいどうぶつといわれているり
ゆうは何でしょうか？

かん字

かん字に直して書きましょう。

(1)きん

(2)うし

(3)のはら

ミーアキャット

さばくの
みはりばん



ミーアキャットは、アフリカのさばくにすむ、小さなどうぶつです。体のおもさはリンゴ一つぶんほどしかなく、ほそ長い体と、くりくりした大きな目がとくちょうです。

むれでくらすミーアキャットには、みはりのやくめがあります。二本の足でまっすぐに立ち、とおくをじつと見はります。てきを見つけると、大きな声でなかまに知らせます。鳴き声は三十しゆるいいじょうもあつて、てきによつて鳴き方をかえるのです。

さむいさばくの朝は、体があたたまるまで、うまいうごけません。そこで、たいようが上ると、まずおなかをたいようにむけて、体をあたためます。目のまわりの黒いもようには、たいようの強い光をやわらげる、サングラスのやわりがあります。

ミーアキャットは地面の下にすあなをほつて、なかまたちと仲良くくらしします。すあなには出口がたくさんあるので、てきが来ても、すばやくにげることができるのです。

せんたく(1)

ミーアキャットはどこにすんでいるのですか？
えらんで○をつけましょう。

- ① オーストラリアの森
- ② 南アメリカの山
- ③ アフリカのさばく

せんたく(2)

てきを見つけたとき、どうしますか？

えらんで○をつけましょう。

- ① しらんぷりをする
- ② 大きな声でなかまに知らせる
- ③ かくれる

きじゆつ(1)

朝、太陽がのぼるとミーアキャットは何をしますか？

きじゆつ(2)

目のまわりの黒いもようのやくわりは何でしょうか？

かん字

かん字に直して書きましょう。

(1) みみ

(2) ちから

(3) みぎて

シマエナガ

せんたく (1) ③ (2) ③

きじゅつ (1) ③ (2) みかんくらい

かん字 (1) 男 (2) 羽 (3) 学校

オコジョ

せんたく (1) ② (2) ③

きじゅつ (1) 山のにんじや (2) てきの目をひきつけて体をまもるため

かん字 (1) 田んぼ (2) 犬 (3) 兄弟

カモノハシ

せんたく (1) ① (2) ①

きじゅつ (1) 毒のはり (2) ほにゆるいなのにたまごをうむから

かん字 (1) 金 (2) 牛 (3) 野原

ミーアキャット

せんたく (1) ③ (2) ②

きじゅつ (1) おなかをたいようにむけてあたためる

(2) たいようの強い光をやわらげる

かん字 (1) 耳 (2) 力 (3) 右手